

技術(機械)名：葡萄ジベレリン処理第2回目塗布器

概要

- 一般にブドウの果実肥大化を目的として、開花後ブドウの房にジベレリン薬液をかけます（第2回目のジベレリン処理）。余液などの雫が果実に残るとサビ不良が発生する可能性があります。そのため、現在一般的には、余液を房や枝を揺すって落としたり、箒などで房等を払っているのが現状です。
- 本装置は、薬液を霧状にして容器内で房全体に塗布させます。これにより、果実肥大化に必要最低限な薬液の塗布が可能となり、余液を落とす作業負担を減らすことができます。
- 容器の上端には房を検知するセンサが設置されており、房の下方から容器を上げるだけで、自動的に薬液の塗布が開始されます。
- 塗布時間は、タイマにより設定が可能で、栽培農家の最終判断（塗布状態等）に応じて塗布時間が設定できます。

効果

- 本装置を用いて農家で実証実験を行ったところ、従来比作業時間が半減、薬液では最大70%の使用量削減を実現しました。
※過年度3か年において累計約1,000房（露地栽培）を対象に実施。
※慣行の第2回ジベレリン処理と余液の払い落としの作業時間及び、使用した薬液量と比較。

写真、図表等

